



Vintage Club by KINTO

走りも見た目もすべてが美しく逞しい。こんなにも心ときめくドラマチックなGTがあっただろうか

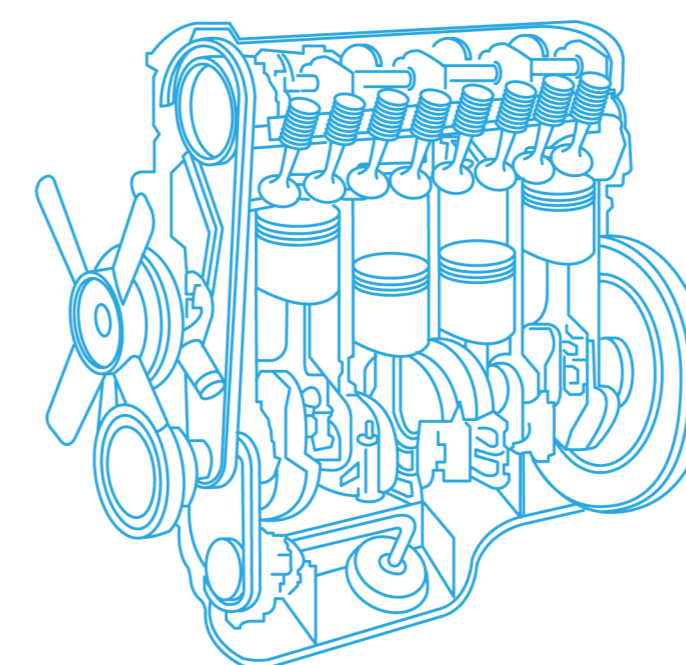
CELICA セリカ LB 2000GT

1970年代、多くの日本人が憧れたアメリカ車に追いついた、日本初のスペシャルティカー“セリカ”。その兄弟車として1973年に強烈なデビューを飾った「セリカリフトバック(LB)」。レースカーとツインカムという最強の組み合わせにもかかわらず、アウトドアでもOKなスポーツカーとして開発されたというから驚きだ。(リアシートを倒すとサーフボードやキャンプ用具などが積める)



セリカ【celica】
スペイン語で「天の」「天空の」「神の」「天国のような」という意味

横から見た流線形の美しさと跳ね上がったダックテールもいいが、セリカLBは後ろ姿が最高にカッコいい。特に「バナナテール」と呼ばれるテールランプは、バナナ5本(前期型)と3本(後期型)があり、そのクールな後ろ姿を印象付けている。



鍛えぬかれた心臓部
その野獣のような
激しい咆哮(ほうこう)を聞くたびに
サーキットの興奮がこみあげる

—セリカLBカタログより—

マークII2000GSSから譲り受けた“18R-GR型4気筒DOHC”エンジンは、最高出力145ps/6400rpmを発生させ、豪快な立ち上がりと、どこまでものびていく高速域の気持ち良さで、たくましい走りを約束。

今回の展示車のスペックはこちら(年式:1975年/当時の価格:112万円)
純正をベースにエンジンを始めとし、各種オーバーホール、リフレッシュしつつ、人気のカスタムを随所に施した。

主要変更箇所	
エンジン	オーバーホール、ボアアップ
トランスミッション	W55 5MT(セリカXX搭載トヨタ純正のものを移植)
ブレーキ	フロント:ローター/キャリパ 他社流用
ホイール	ハヤシレーシング:TYPE ST 6J-15
タイヤ	195/50/R15にサイズアップ DUNLOP(ディレッツァ/DZ102)
マフラー/エキマニ	オリジナル
外装系	・各所:リフレッシュ ・オーバーフェンダー/チンスポイラー /リアウインドルーバー:オリジナル
内装	各所:リフレッシュ